七番、熊倉（くまぐら）

「ふるさとを　はるばるいでて
熊倉の　仏に参る
身こそ　安けれ」

浄土宗　紫雲山　光明寺、住職住
喜多方市熊倉町字八三七
本尊　千手面観世音
駐車場　なし　路駐
トイレ　なし

寺は、永正十七年（一五二〇）鎌倉から来た僧の江月が開基したもので、天正十七年（一五八九）伊達政宗の会津進攻により焼失します。本尊の千手観世音像のみ残して焼失したという。堂内の千手観世音像は一尺七寸五分とされています。

米沢街道の熊倉宿にあり、会津戦争では会津藩が勝利しています。西軍戦死者墓があります。

境内は駐車禁止です。道路に駐車。

八番、竹屋

「けさの日は　はるか竹屋の
観世音　急ぎ参りて
おがめ　旅びと」

曹洞宗　大雲山　観音寺　住職住
喜多方市塩川町中屋沢台畑丙六九七
本尊　如意輪観世音
駐車場　あり、狭いので路駐
トイレ　なし
観音像は県指定文化財

天正元年（一五七三）新潟県阿賀町中村から木翁快元という僧が本尊の如意輪観世音を移して建てたものです。その後、慶安四年（一五六一）現在地に移されています。如意輪観音は片膝を立てていて、当時の座産のスタイルに近いことから、安産に霊験があるとされています。

道路に駐車。本尊は県指定文化財。

九番、遠田

「後の世を　願う心を
照らすらん　とお田の　沖に
いづる　月影」

曹洞宗　福聚山　大光寺　住職住
喜多方市塩川町遠田字谷地中三一二七
本尊　千手観世音
駐車場　あり
トイレ　なし

平安時代には、三重塔や三十六に及ぶ堂舎があったと伝えられています。観音堂は、当時七間四方あり、柱には金がちりばめられ、日橋川に映っていたという。その後、荒廃し、越後から来た安翁という僧が再興したという。観世音像は、三尺五寸とされています。

集落内道路狭し。

図・写真・文　©石田明夫　問合せ　TEL・Fax 0242-24-3423
メール・ホームページ「考古学から見た会津の歴史」で検索